

府立高校改革アクションプランの概要

第1章 府立高校改革アクションプランの策定に当たって

1 策定の趣旨

- 私立高校も含めた高校等の授業料完全無償化により、子どもたちの学校選択の幅が広がる中、公教育の両翼を担う公私が一層切磋琢磨し、教育の質を向上させていくことが求められる。このような中、社会の変化等を見据えた府立高校改革を進めていくことが必要⇒府立高校改革の大きな方向性「府立高校改革グランドデザイン」を策定(R7.3)
⇒グランドデザインに掲げる府立高校改革を具体的に進めていくため、社会の変化に伴う学びのあり方や再編整備の方向性、高校改革に係る当面の具体策を取りまとめた「府立高校改革アクションプラン」を策定

2 府立高校を取り巻く情勢

- ・ 府内公立中学校卒業生数の減少
S62.3 約14万8千人(ピーク)→R6.3 約6万7千人(ピーク時の約45%)
- ・ 府立高校の現状
公立・私立高校の生徒受入割合の変化等の高校進学ニーズの変化、授業料完全無償化による学校選択の幅の拡大、不登校経験のある生徒等へのきめ細かな支援が必要 等
- ・ 社会や産業構造の変化等
デジタル技術の発展に伴うAIやロボット等の活用を担う人材不足、大阪・関西万博を契機とした成長分野での技術の実装化等、産業構造及び就業構造の変化が想定
- ・ 国の動向
普通科の弾力化等による高校の魅力化・特色化の推進や
高校教育改革等への国による支援の強化等に向けた検討 等

3 策定に当たっての視点

- 社会の急激な変化が想定される中、これからの社会を担う子どもたちを育成していくため、令和6年度中に生まれた子どもが15歳に達する2040年を見据えた上で、大阪の教育の質の向上に向けた府立高校改革を取りまとめる。

4 めざす方向性

- 深刻化する少子高齢化や社会・経済の不確実性が増す社会の中、子どもたちに、学びを通じて、自身のキャリアを考え、社会を力強く生き抜く力を育んでいくこと、一人ひとりに応じた多様で柔軟な学びを保障することが求められている。
- 府立高校は、以下役割を果たし、大阪府教育振興基本計画に掲げる「はぐくむ人材」を育成
≪府立高校が果たすべき役割≫
 - ・様々な背景をもつ全ての子どもたちに教育の機会を保障すること
 - ・生徒の多様なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限引き出しながら、多様な能力等を育んでいくこと
- 府立高校における教育改革の方向性
 - ・時代や子どもたちの教育ニーズの変化等を見据え、今取り組むべきことを進める。
 - ・今後も、その時々求められる学びを提供できるよう、変化に対応した教育改革に取り組む。

≪第2期大阪府教育振興基本計画に掲げる「はぐくむ人物像」≫

「人生を自ら切り拓いていく人材」

「認め合い、尊重し、協働していく人材」

「世界や地域とつながり、社会に貢献していく人材」

第2章 再編整備

1 試算(今後の府内公立中学校卒業生数と学校数)

- 今後も府内公立中学校卒業生数の減少が続く見込みである中、学校の魅力化・特色化と効果的な再編整備を両輪として大阪の教育の質を向上させていくことが必要
→今後の府内公立中学校卒業生数と学校数を試算し、府立高校の将来像を展望しながら、府立高校改革の計画的な実現を図る。
- 府内公立中学校卒業生数(試算):2040年 約4万9千人(約6万6千人(R7.3)の約75%に相当)
上記試算を踏まえた府立高校数(試算)(※)

2025年	2040年
136校	104校（▲32校）※

- 上記試算は中長期的な将来を見据えるためのものであり、今後の中学生・保護者の教育ニーズや社会情勢の変化等により変動するものであることから、具体的な学校数や学校配置等については、令和9年度に策定予定の次期再編整備計画に基づき、検討・精査
 - ※ 府内公立中学校卒業生数の試算を基に、計画進学率(93.9%)等一定条件の下に試算。
中学校において35人学級の導入が進んでいる現状や、エンバウメントスクール・ステップスクール等、7学級を前提としない府立高校の設置状況も踏まえると、本試算はあくまで現状の限定的な条件の下でのシミュレーションであり、15年後(2040年)の学校数について上下することは当然 あり得る。
本試算による予測を参考値として、その時々状況や生徒等の教育ニーズの変化を踏まえた再編整備を進める必要がある。

2 再編整備の方向性

- 方向性1:地域の状況や専門的な学び等公立高校としての役割への対応
 - ・各地域の中卒者数の減少と教育の普及及び就学機会の確保の観点で踏まえ、府内の学校配置のバランスを検討
 - ・複数学科の併置や、学校の担う役割・機能の継承等、効果的な再編整備の手法を用いることや、再編整備により府立高校数の減少が進む地域においては、地域の拠点的な学校の設置という観点も含め、検討
- 方向性2:再編整備の手法
 - ・再編整備を進めるに当たり、新校の魅力・特色をより明確にし、中学生等に認知されるため、新校開校までのプロセスの見直しや、統合に合わせ老朽化している学校の建て替えや内装リニューアルと一体で再編整備を行う等「刷新感」を打ち出す手法等を検討
- 方向性3:再編整備対象校の決定
 - ・地域における各校、各学科の役割を踏まえ、志願状況等様々な要素を勘案し、状況に応じた再編手法を都度検討の上、進める。

➡ 上記方向性を踏まえた上で、府立高等学校再編整備方針及び府立高等学校再編整備計画に基づき、計画的に再編整備を進めていく。

府立高校改革アクションプランの概要

第3章 学校改革

○ 府立高校が子どもたちに選ばれる学校となるよう、府立高校の魅力化・特色化を推進

今後の取組		今後の取組	
普通科	○各校における教育内容の充実 ○多様なニーズに応える研究校として、教育センター附属高校の機能を強化 ○新たな普通科（文理探究科）の設置促進 ・令和8年度 春日丘高校に「学際領域」、狭山高校に「社会共創」を設置 ・上記設置校の取組検証を踏まえ、寝屋川高校及び泉陽高校に「学際領域」を設置（令和11年度以降順次予定）	昼間定時制の課程	○中央高校の機能充実 ・大阪わかば高校及び東住吉総合高校のクリエイティブスクールとしての機能を中央高校に集約（令和9年度予定） ○大阪わかば高校の魅力化・特色化と支援学校併設型の学校運営（令和10年度予定） ・日本語指導拠点校とし、必要な学びができる環境を整備するとともに、同校を拠点として世界から府立高校に集まる高校生の協働的な学びを充実あわせて全日制単位制へ改編 ・大阪わかば高校の敷地内に生野支援学校を併設 両校がもつ専門性を生かした教育の展開等
総合学科	○各校における教育内容の充実 ○東住吉総合高校のクリエイティブ機能を令和9年度に発展的に解消、系列を充実	夜間定時制の課程	○教育ニーズや府内の配置状況、規模等を踏まえつつ、昼間の高校に係る再編整備と合わせたあり方検討
グローバルリーダーズハイスクール	○グローバル社会をリードする人材の育成を推進 大学・企業等と連携した課題研究や10校合同の国内・海外研修の実施等 ○各校における教育内容の充実と取組成果の他校への発信	通信制の課程	○柔軟な志願者の受入れと学習環境の充実 ・入学者選抜の募集方法を昼間部と日夜間部のくくり募集に変更、秋季選抜の実施（令和9年度予定） ・半期での単位認定、スクーリングの時間帯の拡大やICTを活用した学習の提供等、生徒が学びやすい学習環境の充実（令和8年度予定） ・オンラインネットワークを活用した効果的な学習や支援のあり方について幅広い観点から研究を実施
国際関係学科	○各校の学科改編 ・普通科及び国際文化科設置校における学科改編（令和11年度以降順次予定） 旭高校、枚方高校、花園高校、長野高校、佐野高校： 新たな普通科（文理探究科（国際（仮）））に改編 ・普通科及び専門学科（英語科・理数科）設置校の学科改編（令和10年度予定） 東高校：英語科・理数科の機能集約の上、総合科学科・国際文化科に改編 いちりつ高校：普通科の機能集約 ○国際関係学科における教育内容の充実（令和10年度予定）	工業系高校	○各校における教育内容の充実等 ・先端技術等に対応したカリキュラムの改編や設備整備等 ○新工業系高校（仮称）の開校（令和10年度予定） ・次世代のイノベーター等の育成に向け、先端技術に対応した学びを提供
エンパワメントスクール	○各校における教育内容の充実 ・基礎学力定着に向けたカリキュラムや授業の充実、定期考査によらない評価の実施、地域社会や企業との連携による体験活動や探究活動等 ・子どもたちの学び意欲をより評価できる入学者選抜制度	商業系高校	○各校における教育内容の充実等 ・時代の変化に即した商業教育のあり方について学校教育審議会で審議 ・商業系高校の新たなイメージについて発信、ブランドイメージを構築
ステップスクール	○各校における教育内容の充実 ・地域と連携した学習の深化に向け、設置校の地域特性を生かした学習活動の充実 ・第一期卒業生の輩出に合わせた取組状況等の検証と充実に向けた検討、取組成果の他校への発信	農業系高校	○各校における教育内容の充実等 ・時代の変化に即した農業教育のあり方について学識経験者の意見聴取等を適宜実施の上、検討 ・生徒主体の広報活動の展開による中学生等への理解促進
学びの多様化学校	○少人数で、かつ一人ひとりの状況に応じて、多様で柔軟な学びを提供する「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）」を教育センター内に教育センター附属高校の分校として設置（令和8年度予定）	専門学科	○各校における教育内容の充実等 ・芸術文化やスポーツ等の振興・発展に貢献できる専門性の高い人材を育成することができるよう、教育環境の整備や更なる教育内容を充実
		中高一貫校	○各校における教育内容の充実等 ・各校における6年間を通した教育活動の一層の充実 ・新たな設置については、社会情勢、地域のニーズや意向等を踏まえ検討

※取組については予算措置を踏まえ実施

府立高校改革アクションプランの概要

※取組については予算措置を踏まえ実施

第4章 各校共通の取組

○ 第3章の学校改革に加え、各校共通で以下の取組を推進

		主な取組(一部抜粋)
教育内容に関する取組	1 英語教育	○ 全府立高校における英語力向上の取組 ➢ 海外の学校との姉妹校提携及び短期留学の実施 ➢ 全校1年次生対象に英語学習ツール「BASE in OSAKA」の導入
	2 不登校対策	○ 小中高で切れめのない支援体制構築に向け、大阪府不登校支援センターの設置 ○ 各校での「OSAKA CYCLE～5つのC～」の更なる強化 ○ 「学びの多様化学校」の設置(令和8年度)
	3 日本語指導に係る支援の充実	○ 大阪わかば高校の日本語指導拠点校化 ○ 日本語指導が必要な生徒が在籍する学校での支援体制構築
	4 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進	○ 障がいのある生徒に対する個に応じた支援 ○ 高等学校における通級による指導 ○ 知的障がい生徒自立支援コース・共生推進教室の設置 ○ 大阪わかば高校と生野支援学校の併設(令和10年度～)
	5 生成AIの活用	○ ポータルサイトへの情報掲載や教職員向け研修の実施検討 ○ 生徒向け生成AI活用ガイドライン(案)の策定等の検討
	6 チーム学校における生徒指導体制	○ スクールカウンセラー等の専門スタッフの参画を促進
	7 部活動の充実	○ 部活動指導員の配置を推進 ○ 部活動大阪モデルの推進 ○ 合同部活動の推進(部活動大阪モデル以外) ○ 外部指導者の派遣
	8 ICT環境の整備	○ 1人1台端末をはじめとするICT環境の整備 ○ 教員研修等、府立高校全体でのノウハウを蓄積・共有
	9 府立高校のネットワーク化	○ 探究活動に関する事例発表を行う機会や魅力発信の機会の創出
施設・設備整備	1 建て替え	○ 施設の改築(建て替え)を推進
	2 内装リニューアル	○ 建替対象となる築70年超えに満たない府立高校の普通教室を中心に内装リニューアルを実施 ○ 府立高校の食堂の飲食スペースの内装リニューアルを検討
	3 トイレの洋式化等	○ トイレの洋式化を推進 ○ 床の乾式化や照明のLED化等の検討・実施(令和9年度以降)
	4 空調設備整備	○ 空調設備の整備を推進

第5章 入試改革

詳細は、大阪府立高等学校入学者選抜改善方針(R7.3)及び令和10年度以降の大阪府公立高等学校入学者選抜制度について(R7.7)のとおり

○ 令和10年度選抜より新たな入学者選抜制度を実施

1 入試期間の短縮

- ・ 特別選抜(2月)と一般選抜(3月)を一本化して高校入試にかかる期間を短縮し、高校入学に向けた準備期間の確保と中学校・高校の連携を充実

2 学校特色枠の導入

- ・ 一般選抜(全日制の課程)において、各高校の取組や学科・コース等の特色に適う生徒を各高校独自の入試方法により優先的に合格にする。

3 第2志望校への出願機会

- ・ 一般選抜(全日制の課程)において、公立第1志望校に加え、公立第2志望校についても出願できる機会を設ける。

第6章 広報改革

○ 各校の強み、魅力、特色等に基づいたブランディングイメージを確立するとともに、中学生等から「選ばれる府立高校」となるよう、プロモーションを含むマーケティング戦略を構築し、実践

プロモーション活動の方向性

- 府立高校全体のブランドイメージ向上にむけたプロモーション活動等を推進
 - ・ 府立高校各校のプロモーション活動の支援に加え、府立高校全体に係る取組等の理解浸透を図る。
＜取組＞ 大阪府公立高校進学フェアの強化
大阪府公立高等学校・支援学校検索サイト(ERABO)の運用
大阪府公立高校等ガイドの発行

- 最新技術の導入等を通じて、各校の広報改革を支援
 - ・ 学校ホームページ等に関する環境整備(SNSとの連携等)

- 民間企業等と連携した広報改革支援
 - ・ 公民連携の仕組み等も最大限活用し、民間企業等におけるブランディング戦略やプロモーション戦略のノウハウ等を取り入れ

○ 多様なプロモーション活動の実現、戦略検討に必要な分析支援、民間企業におけるノウハウ等の積極的な導入等を通じて、各校の広報改革を実現

○ 各校が実現する広報活動と府教育庁の強い発信力を組み合わせて、効率的かつ効果的なプロモーションを推進